

先行プレスリリース

インド更紗

仮称

Indian Chintz (tbd)

2025.9.13 Sat. ~ 11.9 Sun.

休館日=月曜日 (ただし、9/15、10/13、11/3は開館)、9/16 (火)、10/14 (火)
開館時間=10:00 ~ 18:00 (金曜日~ 20:00)*入館は閉館 30分前まで
主催=東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]
企画協力=株式会社ブレントラスト

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



東京都千代田区丸の内 1-9-1 (JR 東京駅 丸の内北口 改札前)
<https://www.ejrccf.or.jp/gallery/>
tel. 03-3212-2485

▼ 絹の裏地と金襴の縁どりが付いた
18 ~ 19 世紀のインド更紗の端切れ
でつくられたガウン
インドネシア/
19 世紀



▲ インドネシア市場向けにつくられた儀礼用の布 (マア) / ガジャラート地方 (インド)、スラウェシ島 (インドネシア) で発見 / 1450-1650 年頃

更紗（さらさ）とは、さまざまな技法で模様染めをした布をさします。その産地として最も古い歴史と高度な技術を誇るのがインドです。染織の難しい木綿布に茜（あかね）や藍などの天然素材を用いて生産されたインド更紗は、宗教儀礼や室内装飾、服飾などさまざまな用途に使われ、鮮やかな色彩とのびやかなデザインが特徴です。主要な交易品として、少なくとも紀元 1 世紀には東南アジアやアフリカへと渡っています。大航海時代にはヨーロッパ各国で相次いだ東インド会社の設立に伴い世界中へと輸出され、他国の要望に応じたデザインも生産されるようになりました。本展では、世界屈指のコレクターが集めた選りすぐりの品々から、古今東西の人々を魅了してやまない、奥深いインド更紗の展開を紹介します。



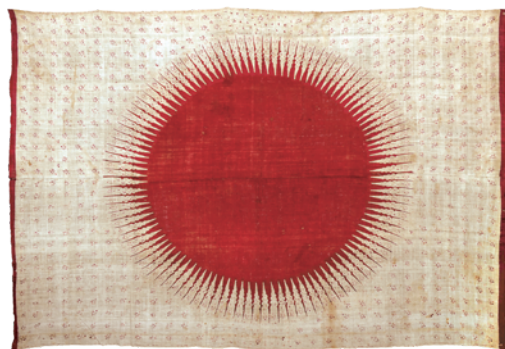
物語図掛け布の一部
インド南東部沿岸、ス
リランカで発見と伝わ
る / 18 世紀



オランダ市場向けにつ
くられ日本で発見され
たインド更紗の端切れ
インド南東部沿岸 /
1700-30 年頃



▲ キリスト教会のためにつくられたカバーまたは掛け布
インド南東部沿岸 / 18 世紀



▲ インドネシア市場向けにつくられた儀礼用の布（マタ・ハリ）
インド南東部沿岸 / 18 世紀後半～ 19 世紀頃



▲ 西洋市場向けにつくられた壁またはベッドの掛け布（パランポレ） / インド南東部沿岸 / 1740-50 年頃



▲ 高価なインド更紗の端切れでつくられた乳児用のボンネット
マルケン（オランダ） / 1750 年代頃

広報に関するお問い合わせ
東京ステーションギャラリー学芸室（羽鳥）
Tel. 03-3212-2763